

静岡市清水区大内地区グリーンベルトにおける協働について

◆ 下 村 史 郎* ◆

1. はじめに

静岡県では、静岡市葵区から清水区にまたがる市街地北側に隣接する山麓（東西12.5km、南北5km、面積65km²の区域）において、平成8年度から都市山麓グリーンベルト整備事業を実施しています。

区域の中でも清水区大内地区は、未着手の土砂災害危険箇所が集中していた上、みかん農地が営農されなくなったため、モウソウ竹が異常に進出し、土砂災害に対する抵抗力が低い状態となっていました。このため、グリーンベルトモデル地区として土砂災害防止施設の重点整備とともに、砂防樹林帯の整備に取り組んでいます。特に、砂防

樹林帯の整備や管理に関しては、継続して進める必要があることから、住民との協働で実施しており、良きパートナー関係を築いています。

2. NPO法人「森と水辺を育てる会」の設立まで

大内地区においては、土石流対策として砂防えん堤工や、がけ崩れ対策として擁壁工の整備にあたるとともに、放置竹林が表土を保全する機能が低いことから、砂防えん堤の堆砂敷よりも概ね直高30m程度までの斜面を県で買収を行いました。斜面に生育する竹林の間伐作業については、住民に呼びかけ、平成12年度からワークショップ形式による意見交換会を重ね、平成14年度より、住民

が里親として樹林帯の良好な育成・管理をしていく「協働」としての斜面整備に取り組んできました。

こうした中、「森と水辺を育てる会」（以下、育てる会と記載）は、平成16年1月に地元有志を中心としたボランティア団体として自発的に発足し、平成17年3月には県と砂防樹林帯（県有地）の維持管理に関する「砂防サポートプログラム」



位置図

*Shiro Shimomura 静岡県建設部河川砂防局砂防室砂防係主任



作業会（下草刈り）の様子



植樹祭の様子



タケノコ掘りの様子

の協定を締結，育てる会が主体となって竹林の間伐，梅や桜等の植樹を実施するようになりました。

育てる会は，里山づくりを行う一方，地元の子供たちに自然豊かな環境学習の場を提供し，自分たちが子供の頃に体験した感動を与えたいという夢を持ち，活動をしています。現在，里山づくりに関しては，竹林を伐採して樹種転換を図る区域，竹林として管理する区域等に分けて整備を進めています。

このような活動の実績から，平成20年10月に静岡市よりNPO法人としての認証を受けました。

3. 「森と水辺を育てる会」の作業会の様子について

育てる会は，月に2～3回程度，竹林の間伐や植樹した箇所の下草刈り，管理道の整備等の作業を実施したり，子供たちとのイベントのための下準備を定期的に行っています。また，切り出した竹を用いて，竹炭や竹踏み等の竹細工を作り，再利用を図ることも行っています。

なお，草刈機や鎌等の道具については，木村基金（財砂防フロンティア整備推進機構）や砂防ボランティア基金（NPO法人砂防広報センター）の助成を受け，購入しています。また，静岡県砂防ボランティア協会の会員も，作業に参加し，一緒になって汗を流しています。

4. 合同の植樹祭について （平成21年4月12日）

平成21年4月12日（日）に，天白沢で地元の小学生たちによる植樹祭が行われました。今回の植樹は，育てる会の趣旨に賛同した清水西ロータ

リークラブや東京都新都心ライオンズクラブから資金援助があり，実現したものです。

この日は，地元の高部小学校の子供たちと保護者，両クラブの会員，静岡大学学生など，総勢約70名で，梅やレモン，ユズリハなどの苗木を植樹しました。

5. タケノコ掘りについて （平成21年4月26日）

平成21年4月26日（日），杉谷津沢で，地元の小学生たちを中心にタケノコ掘りが行われました。このタケノコ掘りは，竹林の増殖を抑制し，健全な法面を保持する大切な作業です。子供たちの貴重な体験学習になることから，「わんぱくたかべ倶楽部」（地元PTAボランティア）が計画し，育てる会が協力する形で行われています。

この日は，地元の高部小学校，高部東小学校の親子も含め約200名の参加があり，育てる会の指導のもとに行われました。

タケノコ掘りを体験した子供たちからはたくさん笑顔を見ることができ，育てる会会員も，今回の成功を喜びながら次回のイベントに夢を膨らませていました。

6. 終わりに

静岡県では，今後も静岡市清水区都市山麓グリーンベルト整備事業の一環として，NPO法人「森と水辺を育てる会」を中心とした地域住民との協働の下，大内地区の土砂災害に強い砂防樹林帯の形成に引き続き取り組んでいきたいと考えています。